

毎日歌壇

伊藤 一彦 選

わたしにもわたしにもわたしにも欲している
ひらひら水待つ八手 池田市 黒木 淳子
△評▽猛暑の続くヤツデの葉を歌っている
が、上の句の切実な訴えはこのヤツデが被
爆直後に水を求めた人々の手を連想させる。
席譲り次の車両に移ったら「どうぞどうぞ」
と席を譲らる 大阪市 吉田 昌之
△評▽席を譲ったあと気をきかせて車両を
移った作者も実は高齢者。温かい心の歌。
弾よりも種を蒔きたい 砲身の先に花咲くウ
エルニ公園 相模原市 榎本 ハナ
警報を受けて2分が生死の界とキーウの人は
ライブで伝う 江別市 海老澤 基
動物にヒトを含めずアジアには日本を含めな
い日本人 京都市 寺西 和史
飲み会がギャップを見せるタイミング フル装備
するこそのおしゃれ 京都市 小林 香織
駄菓子屋の看板娘の白猫を撫でたくて買っ
た ロッパの缶 札幌市 住吉和歌子
母もまた被爆二世と語る友が心にご悪魔
を見た 三鷹市 埴原 悦司
冷房の効いた施設で穏やかに母に添いつつ想
う熊本 春日市 伊藤 亮
幼子のおつかひのこととおとど定年の父マ
キ持ちでゆく 前橋市 西村 晃

米川千嘉子 選

形あるもの壊ればなくなるも幾度も壊るる
形なき心 伊丹市 岡本 信子
△評▽壊れたモノは大抵無いものになる
が、「心」はそうはいかない。どこまでも
生々しく、わが内に抱いていかなければ。
鶏肉は半解凍が切れやすく別れるならば今だ
と思ふ 平塚市 小松百合華
△評▽2人の関係や心が「半解凍」とはど
んな状態だろう。少し謎だが、面白い。
〇〇でよかったでしょうかと過去形で突然
終わる不思議な接吻 さいたま市 長谷川 幸子
アンダーパスでできる以前は不便でも車の水没
なかりし道路 静岡市 柴田 和彦
八十億がもし一国となるならばサッカー熱は
冷めてゆくらむ 成田市 神部 一成
スポーツに勝敗ありて哀しけれ何を愉しむ観
客の破顔 津市 林 榮二郎
抱っこからそっと降ろされし幼児は両手を
あげて歩き出したり 日立市 木村 恵子
家計簿が二四台はめともかきまわす妻もつい
いもう休みなよ 鹿嶋市 加津牟根夫
植え込みの手入れに次々アイデアの浮かびて
夜の明けるを待ちぬ 吹田市 鈴木 基亮
海なしの奈良の都にシンベイズメ垂仁陵が車
窓に過ぎゆく 大和郡山市 四方 護

加藤 治郎 選

人の世にいいねで繋がるうつろさに耐えて都
会の隅に呼吸す 神戸市 小林 照明
△評▽SNSでいいねを付ける。それは人
ではなく抽象的な人の世につながるることな
のだ。満足感はない。うつろなものである。
Waldensanket セルフレには縁が
て森には誰もいない さいたま市 住谷 正浩
△評▽ドイツ語で森の中の孤独という意味
である。日常の喧騒から逃れたいのだ。
魚類系学生募集(私立聖熱田大学水棲学部)
雲南市 熱田 俊月
わたしってわたしでしょうか この血を急に投
げてわたしでしょうか 大津市 世田 夏雪
ふわふわと詩集を駆けて幼子が△ふふ△の
空の△てふてふ△を追う 東京 稲山 博司
夢でしか行けない家のベランダにわすれな草
の鉢を置いてきた 藤沢市 りつとうゆき
人間と思ってきてくれているらしい てのひらに
支給された塩飴 四日市市 早川 和博
アメリカンドックにかけけるケチャップとマス
タードまであかるい夜だ 鳥取市 中ノ島 潤
先生を愛する心、年下の君を愛することに似
ている 直方市 大石 聡美
親愛のふたり一緒に飛ぶ夢をみたんだいつか
ら忘れてたの 守口市 寺前 晴

水原 紫苑 選

九相図を描いたおまえをゆるさない 晩夏の
海がきらきら光る さいたま市 雨谷 詩穂
△評▽九相図とは、主に女性の死体が白骨
になるまでを描いた仏教絵画。描いたのは
海のような気もする。
美しい白桃だけをテーブルに載せて世界と呼
ぶのはやめて 松本市 飛 和
△評▽美しい白桃もやがて腐るのだから、
これだけでも世界なのかもしれない。
生命の振子を巻きたし水上にサガリバナ夏雪
のごとく 豊橋市 氏原 維持
ただ一度朝の空気が交はりてはつかに消えつ
あさがほの香は 東京 山野ゆかり
怯え切ったガラスケースの小動物は子犬のや
うで私のやうで 甲府市 村田 一広
吐瀉終えた猫のほんのり濡れた眼が空の食器
のひかりに近い 川崎市 二宮 珊瑚
まじないを唱えてわたる棧橋の長さが夜の市
場に並ぶ 大阪 中村 杏
方舟に乗せられなかった性別の「その他」に
〇をあなたに歌を 安城市 唐澤 うに
お互いの思うところのなかにある夾竹桃の
向き合った夏 横浜市 街川 二級
ささるるままにボートを漕ぎ出せば船尾に
果実ひとつ重たし 東京 岩本 遥

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。

詩歌便り

◇第2回短歌研究評論賞—松沢もる「連作の領分」
◇第72回角川短歌賞—吉村のぞみ「花の手配」(50首)



こちらから投稿できます

医療制度のしくみ」等」等をよく読んでください。